

登録有形文化財（建造物）

旧小坂鉄道小坂駅本屋及びプラットホーム 旧小坂鉄道小坂駅機関車庫

- | | |
|------------------|---|
| 1 対 象 | 旧小坂鉄道小坂駅本屋及びプラットホーム
旧小坂鉄道小坂駅機関車庫 |
| 2 所在地 | 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉦山字古川20番地9 |
| 3 構造、形式
及び大きさ | 本 屋：木造平家建、鉄板葺、建築面積267㎡
プラットホーム：石造及びブロック造、延長60m
機 関 車 庫：鉄骨造平屋建、鉄板葺、建築面積1163㎡ |
| 4 所 有 者 | 小坂町 |
| 5 登 録 基 準 | 本屋及びプラットホーム：一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
機 関 車 庫：三 造形の規範となっているもの |
| 6 説 明 | |

小坂町は旧盛岡藩に属し、藩内で有数の鉦山地域であった。小坂鉦山は、文久元年（1861）に鉦脈が発見され、慶応2年（1866）に藩営となった。明治維新後は、官営期と南部家私営期を経て、明治17年（1884）に藤田組に払い下げられ現在に至っている。明治33年に黒鉦製錬の成功によって事業が拡大した。

製品は、鉄索によって国鉄奥羽本線白沢駅まで運搬していたが、激増する需要に耐えきれず、明治30年代末から小坂鉄道計画案が検討されはじめた。大館から茂内間の森林鉄道を買収し、小坂までの延長工事が着手され、明治41年9月に完成した。同年に東宮殿下行啓の際にお召し列車を迎えた。明治42年5月に鉦山貨物輸送と旅客運行が開業した。小坂鉄道整備で顧問技師を務めたのは、九州鉄道敷設等に関わった笠井愛次郎である。

平成20年3月小坂鉄道の貨物営業が休止となり、翌4月1日に全営業が廃止され、その役目を終えることとなった。

【本屋及びプラットホーム】

旧小坂鉄道本屋は、明治42年に開業した小坂鉄道の終着駅である。駅舎は開業時の建設で、構造は建物北側が洋小屋、南側が和小屋で、外壁は主にイギリス式下見板張が施されている。屋根は切妻造の鉄板葺である。正面出入口の方杖に使用されている古レールは、刻印から米国のベスレーム鉄鋼社製であることが判っている。

階段状のプラットホームのうち、北側の本屋と同じ高さの部分は開業当時のものと思われる。その後昭和37年の改軌時に増設がされたと推定される。

【機関車庫】

昭和30年代初頭の黒鉦大鉦床の発見により、輸送力増強を目的として、昭和37年（1962）に改軌工事が行われた。これに伴って、小坂駅構内の鉄道設備も更新され、新たに導入されたディーゼル機関車及び気動車の格納・整備施設として機関車庫も油庫とともに新築された。昭和42年からDD130型ディーゼル機関車が随時導入されたこと等により昭和44年に北側部が増築された。機関車庫は、車両格納・整備と機関区の詰所として機能を発揮した。



本屋



機関車庫



機関車庫收藏資料
(登録対象外)